

理工学部 システムデザイン工学科 土木環境工学コース 履修モデル

学習・教育到達目標		授 業 科 目 名															
大項目	小項目	1年				2年				3年				4年			
		前期		後期		前期		後期		前期		後期		前期		後期	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
総合	(A-1) 土木環境工学の基礎知識					構造力学Ⅰ(◎)	構造力学Ⅱ(◎)			土木工学(◎)	土木工学演習(○)			土木環境工学実験(○)			
	(A-2) 土木環境工学の応用知識					建設材料Ⅰ(◎)	建設材料Ⅱ(◎)			土質工学演習(○)	構造力学Ⅱ(○)			地盤工学(◎)	地盤工学演習(○)		
	(A-3) 社会基盤整備における総合的な解決策のデザイン能力	初年次ゼミ(◎)								土木計画数理(◎)	都市システム計画(◎)			土木環境工学特別講義(◎)			
素養	(B-1) 地球環境に関心をもち多面的な視点で考察する能力					主観別科目(○)				水理学Ⅰ(○)	水理学Ⅱ(○)			環境水理学(○)			
	(B-2) 技術者としての倫理観									技術者倫理(◎)							卒業課題研究(○)
知識	(C-1) 新たな課題に対応できるよう自主的・継続的に学習する能力					基礎線形代数Ⅰ(○)	基礎線形代数Ⅱ(○)	基礎線形代数Ⅲ(○)	基礎線形代数Ⅳ(○)	多変数微分積分Ⅰ	多変数微分積分Ⅱ			構造力学Ⅰ(◎)	構造力学演習(○)		
	(D-1) 自然科学などの基礎知識					基礎線形代数Ⅰ(◎)	基礎線形代数Ⅱ(◎)	基礎線形代数Ⅲ(◎)	基礎線形代数Ⅳ(◎)	基礎微分積分Ⅰ(◎)	基礎微分積分Ⅱ(◎)	基礎微分積分Ⅲ(◎)	基礎微分積分Ⅳ(◎)	基礎力学Ⅰ(◎)	基礎力学Ⅱ(◎)	基礎電磁気Ⅰ(◎)	基礎電磁気Ⅱ(◎)
技能	(E-1) 論理的に記述・発表する能力													情報処理の技法(◎)	基礎情報学(◎)	基礎AI学(◎)	測量学(○)
	(E-2) 討論を通じて改善する能力													初年次ゼミ(○)			
	(E-3) 国際的コミュニケーションのための基礎能力													国際言語科目(◎)			
卒業	(F-1) 目標とプロセスの設定能力																卒業課題研究(◎)
	(F-2) 計画的な仕事の遂行能力																卒業課題研究(◎)

土木環境工学コースの学習・教育到達目標について

※1:表中の「◎」は各項目に密接に関連し、「○」は各項目に関連する科目である。
 ※2:学習・教育到達目標は必修科目を全て修得することで達成する。表に記載した科目以外に選択科目があるため、履修案内に記載している進級要件と卒業要件に必ず留意すること。

(A)社会基盤整備において、人間の幸福や公共の福祉、地域環境の視点から、社会の要請を多面的にとらえ、確固とした土木環境工学の基礎的および専門的知識や技術を用いて、総合的な解決策をデザインする素養と能力を身につける。
 (B)自然や生命等、地球環境に広く関心をもち、これを多面的な視点で考察する能力、ならびに土木環境工学に関する基礎知識の応用を通じて、自然と社会との関わりやそれら相互の影響を理解し、技術者として自然や社会に対する責任を自覚する素養を身につける。
 (C)社会がかかえる課題の進化を認識し、土木環境工学において新たに小課題対応に必要な専門的知識や技術を、自主的・継続的に学習できる能力を身につける。
 (D)数学や自然科学、情報技術などの基礎知識を習得し、自然現象や社会現象のメカニズムを理解する能力を身につける。また、人文科学や社会科学の知識を習得することで、多様な情報を収集・分析し、社会の要請を多面的にとらえる能力を身につける。
 (E)現象を理解し、問題の所在・解決策を論理的に記述・発表する能力を身につける。また、討論を通じて現象に対する理解を深め、解決策の問題点を改善する能力を身につける。さらに、国際的に通用するコミュニケーション基礎能力を身につける。
 (F)自然環境、社会環境、経済環境、時間等の制約下において、目標とそこに至るプロセスを自ら設定し、計画的に仕事を遂行する能力を身につける。

※本履修モデルには、土木環境工学コースの「学習・教育到達目標」を達成するための「必修科目」のみを記載しています。卒業・進級には、ここに記載した必修科目以外に、進級要件および卒業要件に当たって、所定の「選択科目」を修得する必要があります。